

# 心のケア 学ぶ場に

戸田市本町の戸田中央看護専門学校(中村毅校長、生徒数約320人)で、6階建ての新校舎が完成した。新学期の授業が始まるのを前に、内覧会が4日行われ、病院関係者ら多数が訪れた。(岸鉄夫)

## 戸田中央看護専門学校

同校は、77年に定時制282年に全日制2年課程を開年課程の戸田中央看護学校設立、95年から高卒を受け(定員30人)として発足。入れる3年課程の専門学校



成人・高齢患者の看護実習用患者ロボット—戸田中央看護専門学校



完成した戸田中央看護専門学校の新校舎—戸田市

## 新校舎完成 充実の設備

となった。現在は1学年の定員120人で、看護師養成校としては県内屈指のマンモス校だ。今春の国家試験合格率は97%だった。

母性看護の実習室は、産科病棟と同様にずらりと小さなベッドが並ぶ。「これだけ充実した実習室はほかにありません」と担当教師の阿部信子さん。「生徒たちは皆、(看護師が)好きで入ってきている。そこが普通の大学と違い、皆熱心です」と同僚教師の岩沢浩江さん。2人とも助産師として

20年以上のベテランだ。1クラス30人。1学年は4クラス。循環器科看護の担当教師、馬淵由美子さんは「病気は命に直結する。だから、不安を抱えた患者さんの心のケアが大事だと教えてます。素直な生徒ばかりなので教えがいがある」。

1年生の基礎看護の実習室では、担当教師の佐々木栄利子さんが「看護は、手や思いやりも含めたもので合ってみると、患者さんの身になって理解できる」。成人や高齢の患者の看護の実習を担当する朝倉由美さんは「患者さんの不安、痛み、つらさが分かるように指導したい」と話した。卒業生を受け入れる立場から見学した戸田中央総合病院の看護部長、多田真里子さんは「こういう充実した施設で実習ができれば、現場の実践で役に立つと思う」と話した。

